

令和3年

2月16日発行

第56号

受賞記念特集号

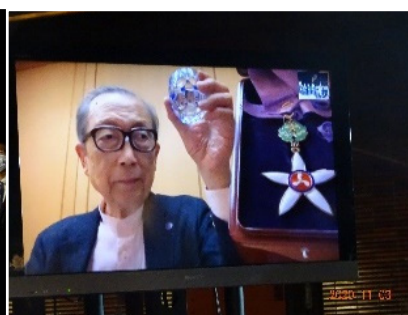
文化勲章受章おめでとうございます

澄川喜一 センター長

オンライン 祝賀会

受章された11月3日、東京（帝国ホテル）とグラントワをオンラインで結ぶお祝いの会が行われました。

益田市市長、津和野町長、吉賀町長、をはじめ地元の関係者、グラントワ職員、ボランティア約100名。司会・進行（グラントワ）乾杯、お祝いの言葉・メッセージがあり、東京から映像を通して文化勲章のご披露、「今後も頑張つて活動する」とのお言葉がセンター長よりあり、最後に東京からの先生の映像を囲んで記念写真を撮りました。



石見美術館での作品展

12月から2月まで 澄川喜一作品展を展示室Cで開催。先日、ボランティア会メンバー（約20名）が作品についての解説を聞きました。『そりのあるかたち』について「木の声を聴きながら作っていく」というお話に感銘。



「記念植樹」「記念碑除幕」

12月15日 グラントワでは、「記念植樹」と「記念碑」の除幕式が行われました。記念樹は、出生地の吉賀町の町の木「コウヤマキ」（高野槇）（約130センチ）。植樹・記念碑の場所は、正面入り口東側です。記念碑と記念碑は澄川喜一氏（センター長）の文化勲章の栄誉を讃えて、また郷土の誇りとして末永く伝えられることとなります。





「受章記念」お祝いの会

ボランティア会とのお祝いのセレモニーを12月15日、レストラン「ポニー」で開催。事務局上野さんの進行のもと「花束贈呈、乾杯、お祝いの言葉、会食、懇談、記念撮影」と和やかな会合でした。(参加者20名余。)

澄川喜一センター長には、お会いするたびにボランティア会へ温かい激励の言葉を頂き感謝しております。文化勲章の榮譽に輝く先生の下でボランティア活動ができることを光榮に思っています。受章おめでとうございます。ご健勝をお祈りいたします。

澄川センター長との懇談会

グラントワ開館15周年にあたる昨年10月、ボランティア会の会長と数名がセンター長との懇談会を行いました。

グラントワが地域の文化の向上や発展に大きく寄与していること、またボランティアの活動に感謝と激励のお言葉がありました。懇談会の後に寄贈された石材作品の紹介をいただきました。

(作品は建物周辺に設置されている。)



あ　と　が　き

1767年、11歳の少年モーツァルトは故郷ザルツブルクから父親レオポルトに連れられて、姉ナンネルと帝都ウィーンに旅立ちます。ウィーンでは天然痘が大流行していてモーツァルトも感染し危険な状態となりました。医療も未発達な時代、「神に祈るしかない」という状況にもなったようですが、少年は幸い奇跡的に回復しました。この天然痘、人類が今までに撲滅させることのできた唯一のウイルス感染症だということです。

新型コロナウイルスが世界中で人々の日常を奪っています。通常の風邪を引き起こす既存のヒトコロナウイルスのように定着するまでに10年程度が見込まれていて、その頃には死亡率は低下、インフルエンザを下回る可能性もあるといえます。高齢になって初めて感染するのでなく、幼少時のほとんどの人の感染で、免疫を得ることで高齢者感染の重症化を防げるのですね。

しかしながら国内でも昨年初め

より不安・混乱・我慢の時間が続いています。例えば海外旅行を楽しみにしている人で考えてみますと、コロナ禍以前のように国際線航空便が運航されるまでには10年もかからない。国内はもちろん、世界で少しづつ日常レベルを取り戻していくことが出来、遅くとも3年か4年後くらいには自由な往来を取り戻しているような気がします。

同じ「非日常」でもグラントワでオペラや歌舞伎を楽しんだりポップス・コンサートに興じたりすることは楽しみ多いものですが、ウイルス感染症で様々の活動の縮小などが余儀なくされるのは困りものです。でももう少しの辛抱ですね。

情報発信ボランティア

大庭 明 博

この「受章記念特集号」発行に当たっては、飯塚哲也さん(情報発信ボランティア)の尽力で、記事文・写真をいただき編集できました。